

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称 : Modesta M2BLAST - Maintenance Spray
製品コード : 00435
製品グループ : 取引製品

会社情報

製造業者

株式会社モデスタ
761-8075
日本香川高松市東ハゼ町 20-3
www.modesta.co

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

物理化学的危険性	爆発物	分類できない
	可燃性ガス	区分に該当しない
	エアゾール	分類できない
	酸化性ガス	区分に該当しない
	高压ガス	区分に該当しない
	引火性液体	区分 3
	可燃性固体	区分に該当しない
	自己反応性化学品	分類できない
	自然発火性液体	分類できない
	自然発火性固体	区分に該当しない
	自己発熱性化学品	分類できない
	水反応可燃性化学品	分類できない
	酸化性液体	分類できない
	酸化性固体	区分に該当しない
	有機過酸化物	分類できない
	金属腐食性化学品	分類できない
	鈍性化爆発物	分類できない
健康に対する有害性	急性毒性 (経口)	区分に該当しない
	急性毒性 (経皮)	分類できない
	急性毒性 (吸入 : 気体)	区分に該当しない
	急性毒性 (吸入 : 蒸気)	区分に該当しない
	急性毒性 (吸入 : 粉じん、ミスト)	分類できない
	皮膚腐食性／刺激性	分類できない
	眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	分類できない
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	分類できない
	生殖細胞変異原性	分類できない
	発がん性	分類できない
	生殖毒性	分類できない
	特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	区分 2 (中枢神経系, 腎臓, 血液系)
	特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	分類できない

安全データシート

Modesta M2BLAST - Maintenance Spray

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

環境に対する有害性	誤えん有害性 水生環境有害性 短期（急性） 水生環境有害性 長期（慢性） オゾン層への有害性	分類できない 区分 2 区分 3 分類できない
-----------	---	----------------------------------

ラベル要素

絵表示 (GHS JP)



注意喚起語 (GHS JP)

危険有害性 (GHS JP)

: 警告
: 引火性液体及び蒸気 (H226)
臓器の障害のおそれ (中枢神経系、腎臓、血液系) (H371)
水生生物に毒性 (H401)
長期継続的影響によって水生生物に有害 (H412)

注意書き (GHS JP)

安全対策

: 熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。(P210)
容器を密閉しておくこと。(P233)
容器を接地しアースをとること。(P240)
防爆型の電気機器／換気装置／照明機器を使用すること。(P241)
火花を発生させない工具を使用すること。(P242)
静電気放電に対する措置を講ずること。(P243)
蒸気、ミストを吸入しないこと。(P260)
取扱い後は手をよく洗うこと。(P264)
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。(P270)
環境への放出を避けること。(P273)
適切な保護手袋、保護眼鏡を着用すること。(P280)

応急措置

: 皮膚（又は髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水又はシャワーで洗うこと。(P303+P361+P353)
ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。(P308+P311)
火災の場合：消火するために耐アルコール泡を使用すること。(P370+P378)

保管

: 換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。(P403+P235)
施錠して保管すること。(P405)

廃棄

: 内容物／容器を地方、地域、国内の法令や国際的法令に順守した危険廃棄物又は特別廃棄物の収集場所廃棄すること。(P501)

処理時の追加危険有害性

: 通常の使用条件下では、重大な危険有害性はないと思われる。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別

: 混合物

名前	濃度 (%)	化学式	官報公示整理番号		CAS 番号
			化審法番号	安衛法番号	
エタンジオール; エチレングリコール	2.5	C2H6O2	(2)-230	既存化学物質	107-21-1
トリデセス-10	0.75	-	-	-	69011-36-5

安全データシート

Modesta M2BLAST - Maintenance Spray

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

名前	濃度 (%)	化学式	官報公示整理番号		CAS 番号
			化審法番号	安衛法番号	
ラウレス-10	0.5	C12H25(OC2H4)nOH	(7)-97	既存化学物質	9002-92-0
酢酸	0.75	C2H4O2	(2)-688	既存化学物質	64-19-7
クオタニウム-18	0.6	CxHy. Cl. N	-	-	61789-80-8
流動パラフィン	1.1	CxHy	-	-	8002-74-2

4. 応急措置

応急措置

- 応急措置 一般 : ばく露又はばく露の懸念がある場合 : 医師の診断／手当てを受けること。
- 吸入した場合 : 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- 皮膚に付着した場合 : 皮膚を流水／シャワーで洗うこと。
汚染された衣類を直ちに全て脱ぐこと。
- 眼に入った場合 : 予防措置として眼を水ですすぐ。
- 飲み込んだ場合 : 気分が悪いときは医師に連絡すること。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な兆候及び症状

- 症状/損傷 吸入した場合 : ヒト及び動物に対する毒性データは知見されていないが、本製品は吸入危険有害性と見なされる。
- 症状/損傷 皮膚に付着した場合 : 通常の条件下では特に無し。
- 症状/損傷 眼に入った場合 : 通常の条件下では特に無し。
- 症状/損傷 飲み込んだ場合 : 通常の条件下では特に無し。

医師に対する特別な注意事項

- その他の医学的アドバイスまたは治療 : 対症的に治療すること。

5. 火災時の措置

- 適切な消火剤 : 水噴霧、乾燥粉末消火剤、泡消火剤、二酸化炭素
- 使ってはならない消火剤 : 強い水流は使用しない。
- 火災危険性 : 引火性液体及び蒸気。
- 爆発の危険 : 直接に爆発する危険は全くない。
- 火災時の危険有害性分解生成物 : 有毒な煙を放出する可能性がある。
- 消火方法 : 安全な距離と保護された場所から消火活動を行う。
呼吸器の保護を含め、適切な保護装置を使用せず、火災現場に入らない。
- 消火時の保護具 : 適切な保護具を着用して作業する。
自給式呼吸器。
完全防護服。

安全データシート

Modesta M2BLAST - Maintenance Spray

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置

- 一般的措置
- ：安全に対処できるならば漏えい（洩）を止めること。
 - ：本製品が下水、または公共用水に流入した場合も、行政当局に通報する。
 - ：物的被害を防止するためにも流出したものを吸収すること。

非緊急対応者

- 保護具
- ：推奨される個人用保護具を着用する。
- 応急処置
- ：漏出エリアを換気する。
 - ：裸火、火花禁止、禁煙。
 - ：粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。

緊急対応者

- 保護具
- ：適切な保護具を着用して作業する。
 - ：詳細については、第8項の「ばく露防止及び保護措置」を参照。
- 応急処置
- ：不要な職員を退避させる。
 - ：安全に対処できるならば漏えい（洩）を止めること。

環境に対する注意事項

- 環境に対する注意事項
- ：環境への放出を避けること。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

- 封じ込め方法
- ：漏出物を回収すること。
 - ：流出した物質は吸着剤で回収し、下水溝や水路への侵入を防止する。
 - ：可能であればリスクなく漏出をせき止める。
- 浄化方法
- ：吸収剤の中で拡散した液体を吸収する。
 - ：本製品が下水、または公共用水に流入した場合も、行政当局に通報する。
- その他の情報
- ：物質または固形残留物は公認施設で廃棄する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

- 技術的対策
- ：データなし
- 安全取扱注意事項
- ：作業所の十分な換気を確保する。
 - ：熱／火花／裸火／高温のもののような着火源から遠ざけること。一禁煙。
 - ：容器を接地すること／アースをとること。
 - ：火花を発生させない工具を使用すること。
 - ：静電気放電に対する予防措置を講ずること。
 - ：引火性蒸気が容器内に蓄積することがある。
 - ：防爆型装置を使用する。
 - ：個人用保護具を着用する。
 - ：粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。

- 接触回避
- ：データなし

- 衛生対策
- ：この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
 - ：製品取扱い後には必ず手を洗う。

- 処理時の追加危険有害性
- ：通常の使用条件下では、重大な危険有害性はないと思われる。

保管

安全データシート

Modesta M2BLAST - Maintenance Spray

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

安全な保管条件	: 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。 換気の良い場所で保管すること。 涼しいところに置くこと。 容器を密閉しておくこと。 施錠して保管すること。
安全な容器包装材料	: データなし
技術的対策	: 涼しくて、よく換気された場所で、熱から離して保存する。 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。 容器を接地すること／アースをとること。
混触禁止製品	: 強塩基。強酸。酸化剤。
容器包装材料	: 製品は必ず元の容器と同じ素材の容器に保管する。
保管温度	: 22 °C

8. ばく露防止及び保護措置

酢酸 (64-19-7)	
日本 - ばく露限界値 (日本産業衛生学会)	
現地名	酢酸 # Acetic acid
許容濃度	25 mg/m ³
	10 ppm
規則参照	許容濃度等の勧告 (2021 年度) 産衛誌 63 巻

設備対策 : 作業所の十分な換気を確保する。

保護具

個人用保護具 : 推奨される個人用保護具を着用する。

呼吸用保護具 : 換気が不十分である場合、適切な呼吸器を着用する。

機器	フィルタタイプ	条件	規格
使い捨て式空気浄化呼吸器(APR)		短期ばく露	

手の保護具 : 保護用手袋

タイプ	素材	透過	厚さ (mm)	浸透	規格
使い捨て式手袋	ニトリルゴム (NBR) クロロプレンゴム (CR)	6 (> 480 分)	0,4-0,7		EN 374-2 EN ISO 374 EN ISO 374-1

眼の保護具 : 安全メガネ

タイプ	適用分野	特徴	規格
安全メガネ		サイドシールド付き	EN 166

皮膚及び身体の保護具 : 適切な保護衣を着用する。

タイプ	規格
	EN ISO 6529 EN ISO 20345

環境へのばく露の制限と監視 : 環境への放出を避けること。

安全データシート

Modesta M2BLAST - Maintenance Spray

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	: 液体
色	: 青色
臭い	: データなし
pH	: データなし
融点	: データなし
凝固点	: データなし
沸点	: > 100 °C
引火点	: データなし
自然発火点	: データなし
分解温度	: データなし
可燃性	: 引火性液体及び蒸気
蒸気圧	: データなし
相対密度	: データなし
密度	: データなし
相対ガス密度	: データなし
溶解度	: 不混和性。有機溶媒に可溶。
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	: データなし
爆発限界 (vol %)	: データなし
動粘性率	: データなし
粒子特性	: データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	: 引火性液体及び蒸気。 通常の使用、保管、運送の状況下では、当製品は反応しません。
化学的安定性	: 通常の条件下では安定。
危険有害反応可能性	: 通常の使用条件下において、危険な反応は全く知られていない。
避けるべき条件	: 高温面との接触を避ける。熱。炎や火花の禁止発火源をすべて断つ。推奨の保存条件及び取扱条件の下では何もありません（第7項参照）。
混触危険物質	: データなし
危険有害な分解生成物	: 通常の使用条件及び保管条件下において、有害な分解生成物は生成されない。

11. 有害性情報

急性毒性 (経口)	: 区分に該当しない
急性毒性 (経皮)	: 分類できない
急性毒性 (吸入)	: 区分に該当しない(分類対象外) (気体) 区分に該当しない(分類対象外) (蒸気) 分類できない (粉じん、ミスト)

安全データシート

Modesta M2BLAST - Maintenance Spray

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

エタンジオール; エチレングリコール (107-21-1)	
急性毒性 (経口)	ラットの LD50 値として、4,000-13,400 mg/kg の範囲内で 10 件の報告がある。ガイダンスの改訂により、最も多くのデータ (6 件) (6,140 mg/kg (PATTY (6th, 2012)), 8,540 mg/kg (DFGOT vol. 4 (1992)、PATTY (6h, 2012)), 10,800 mg/kg (DFGOT vol. 4 (1992)、PATTY (6th, 2012)), 11,300 mg/kg (PATTY (6th, 2012)), 13,000 mg/kg、5,890-13,400 mg/kg (SIDS (2009)) が該当する区分外とした。なお、3 件が国連分類基準の区分 5、1 件が国連分類基準の区分 5 又は区分外に該当する。新たな情報源 (ACGIH (7th, 2001)、環境省リスク評価第 3 巻 (2004)、ATSDR (2010)、PATTY (6th, 2012)、DFGOT vol. 4 (1992)、CEPA (2000)、NITE 初期リスク評価書 (2007)、SIDS (2009)) を追加し、分類を見直した。
急性毒性 (経皮)	ラットの LD50 値として、2,800 mg/kg (ACGIH (7th, 2001))、ウサギの LD50 値として、9,530 mg/kg (ACGIH (7th, 2001)、PATTY (6h, 2012))、10,600 mg/kg (CICAD 45 (2002)、CEPA (2000)、NITE 初期リスク評価書 (2007))、10,612 mg/kg (環境省リスク評価第 3 巻 (2004)) の 4 件の報告がある。1 件が国連分類基準の区分 5 に、3 件が区分外に該当する。ガイダンスの改訂により最も多くのデータ (3 件) が該当する区分外とした。
急性毒性 (吸入:気体)	GHS の定義における液体である。
急性毒性 (吸入:蒸気)	データ不足のため分類できない。
急性毒性 (吸入:粉じん、ミスト)	ラットの LC50 値 (1 時間) として、10.9 mg/L (4 時間換算値 : 2.7 mg/L) (PATTY (6th, 2012)) に基づき、区分 4 とした。なお、LC50 値が飽和蒸気圧濃度(0.2 mg/L) より高いため、ミストの基準値を適用した。新たな情報源 (PATTY (6th, 2012)) を追加し、区分を見直した。
LD50 経口 ラット	7712 mg/kg BW 動物 : ラット
LC50 吸入 - ラット (粉じん / ミスト)	2.7 mg/l/4h
トリデセス-10 (69011-36-5)	
LD50 経口 ラット	> 2000 mg/kg BW 動物 : ラット、ガイドライン : OECD ガイドライン 423 (急性経口毒性-急性毒性クラス法)、ガイドライン : EU メソッド B.1 トリス (急性経口毒性-急性毒性クラス法)、ガイドライン : EPA OPPTS 870.1100 (急性経口毒性)
LD50 経皮 ラット	> 2000 mg/kg BW 動物 : ラット、ガイドライン : OECD ガイドライン 402 (急性皮膚毒性)
LD50 経皮 ウサギ	約 5960 mg/kg BW 動物 : ウサギ、動物の性別 : 男性
LC50 吸入 - ラット	> 1.6 mg/l air 動物 : ラット、ガイドライン : OECD ガイドライン 403 (急性吸入毒性)
ラウレス-10 (9002-92-0)	
LD50 経皮 ラット	> 2000 mg/kg BW 動物 : ラット、ガイドライン : OECD ガイドライン 402 (急性皮膚毒性)
酢酸 (64-19-7)	
急性毒性 (経口)	ラットの LD50 値=3310、3530 mg/kg (PATTY (5th, 2001)) に基づき、JIS 分類基準の区分外(国連分類基準の区分 5) とした。

安全データシート

Modesta M2BLAST - Maintenance Spray

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

酢酸 (64-19-7)	
急性毒性 (経皮)	ウサギの LD50 値=1060 mg/kg (PATTY (5th, 2001))から区分 4 とした。
急性毒性 (吸入:気体)	G H S の定義における液体である。
急性毒性 (吸入:蒸気)	ラットの LCLo=16000 ppm(PATTY (5th, 2001))は区分 4 あるいは区分外に相当することから分類できないとした。なお、飽和蒸気圧濃度の 90% (20394.7ppmV * 0.90 = 18355ppmV) より低いので、分類にはガスの基準値を適用した。
急性毒性 (吸入:粉じん、ミスト)	データなし。
LD50 経口 ラット	3310 mg/kg BW 動物：ラット
LD50 経口	4960 mg/kg BW 動物：マウス
LD50 経皮 ウサギ	1060 mg/kg 出典：HSDB, NITE
LD50 経皮	1060 mg/kg
LC50 吸入 - ラット (蒸気)	> 40 mg/l 出典：ECHA Registered substances
クオタニウム-18 (61789-80-8)	
急性毒性 (経口)	ラットを用いた経口投与試験から、LD50=11,300 mg/kg (CERI・NITE 有害性評価書 No.78 (2005)) に基づき、区分外とした。
急性毒性 (経皮)	ラットを用いた経皮投与試験の LD50>2,000 mg/kg (CERI・NITE 有害性評価書 No.78 (2005)) に基づき、区分外とした。
急性毒性 (吸入:気体)	GHS の定義による固体であるため、ガスでの吸入は想定されず、分類対象外とした。
急性毒性 (吸入:蒸気)	データなし
急性毒性 (吸入:粉じん、ミスト)	データなし
LD50 経口 ラット	> 2000 mg/kg BW 動物：ラット、ガイドライン：OECD ガイドライン 401 (急性経口毒性)
LD50 経皮 ラット	> 2000 mg/kg BW 動物：ラット、ガイドライン：OECD ガイドライン 402 (急性皮膚毒性)
流動パラフィン (8002-74-2)	
急性毒性 (経口)	ラットの LD50 値>5000 mg/kg (IUCLID(2000))、>3750mg/kg (IUCLID (2000)) に基づき区分外とした。
急性毒性 (経皮)	ウサギの LD50>3600mg/kg (IUCLID2000) に基づき、JIS 分類の区分外 (国連分類基準の区分 5 または区分外) とした。
急性毒性 (吸入:気体)	GHS の定義における固体である。
急性毒性 (吸入:蒸気)	データなし。
急性毒性 (吸入:粉じん、ミスト)	データなし。
LD50 経口 ラット	> 5000 mg/kg BW 動物：ラット、ガイドライン：OECD ガイドライン 401 (急性経口毒性)
LD50 経皮 ラット	> 2000 mg/kg bw/day 動物：ラット、ガイドライン：OECD ガイドライン 402 (急性皮膚毒性)

安全データシート

Modesta M2BLAST - Maintenance Spray

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

流動パラフィン (8002-74-2)	
LD50 経皮 ウサギ	> 3600 mg/kg 出典 : NITE
皮膚腐食性／刺激性 : 分類できない	
エタジオール; エチレングリコール (107-21-1)	
皮膚腐食性／刺激性	ヒト 103 人に対するパッチテストにおいて、本物質の原液 0.2 mL の適用により刺激性がみられた (SIDS (2009)) ことから、区分 2 とした。またウサギ、モルモットを用いた皮膚刺激性試験で軽度の皮膚刺激性がみられた (CICAD 45 (2002)、初期リスク評価書 (2007)、CEPA (2000)) との報告がある。ヒトの所見を追加し区分を変更した。
酢酸 (64-19-7)	
皮膚腐食性／刺激性	ウサギあるいはモルモットを用いた試験 (PATY (5th, 2001)、ACGIH (2004)) において、刺激性の程度はばく露の濃度と時間に依存し、特に 50～80%以上の濃度では重度の熱傷と痂皮形成が観察されている。かつ、EU 分類では C;R35 であることから、区分 1 とした。なお、pH は 1.0M=2.4 (Merck (14th, 2006))、である。
クオタニウム-18 (61789-80-8)	
皮膚腐食性／刺激性	CERI・NITE 有害性評価書 No.78 (2005) のウサギを用いた OECD TG404 に準拠した試験の結果の記述に、含有量 97%の本物質を 72 時間適用した場合に「刺激性を示さなかった」とあるため、刺激性なしと考え、区分外とした。
流動パラフィン (8002-74-2)	
皮膚腐食性／刺激性	ウサギを用いた Draize 法による 2 試験において、24 時間適用で「not irritating」と「slightly irritating」の結果があり〔何れも IUCLID(2000)〕、また 20 人のボランティアでの皮膚刺激性試験の結果、1 人にわずかな紅斑が認められた以外、他の 19 人は刺激性を示さなかったとの報告がある〔IUCLID(2000)〕。以上の結果に基づき、区分外とした。
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性 : 分類できない	
エタジオール; エチレングリコール (107-21-1)	
眼に対する重篤な損傷性／刺激性	ウサギに原液を適用した眼刺激性試験において、刺激性なしとの報告がある (SIDS (2009))。また、液体や蒸気への 1 回あるいは短時間の眼へのばく露は、恒久的な角膜損傷を伴わない軽微な結膜刺激をウサギに引き起こす (CICAD 45 (2002)、初期リスク評価書 (2007)、CEPA (2000)) との報告がある。ヒトの事故例として本物質 (濃度不明) に眼にばく露された結果、結膜炎、浮腫、光反射の遅延、重度の角膜炎がみられたが 4 週間後には回復したとの報告がある (DFGOT vol. 4 (1992)) が濃度等については詳細不明である。以上の結果から区分 2B とした。
酢酸 (64-19-7)	
眼に対する重篤な損傷性／刺激性	ウサギ眼に氷酢酸を適用直後に破壊的損傷を生じた (ACGIH (2004)) こと、別の試験で 10%以上の濃度で永続的角膜損傷を伴う重度の刺激性を示した (IUCLID (2000)) こと、ヒトで誤って眼に入れてしまった後直ちに洗浄したにも拘らず角膜混濁や虹彩炎を起こし、上皮の再生に何ヶ月も要し特に角膜混濁は永続的であったとの症例報告 (PATY (5th, 2001)) もあり、区分 1 とした。

安全データシート

Modesta M2BLAST - Maintenance Spray

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

クオタニウム-18 (61789-80-8)	
眼に対する重篤な損傷性／刺激性	CERI・NITE 有害性評価書 No.78 (2005) の、OECD TG405 に準拠したウサギを用いた試験の結果の記述に、「強い刺激性を示した」とあり、非可逆的な刺激性を示すか不明であるため区分 1-2A とした。安全性の観点から区分 1 とする方が望ましい。

流動パラフィン (8002-74-2)	
眼に対する重篤な損傷性／刺激性	ウサギを用いた Draize 法類似試験において、軽度（slightly）の刺激性（IUCLID(2000)）およびウサギの標準 Draize 試験において軽度（mild）の記述（RTECS(2008);Journal of the American College of Toxicology. 3(3),43,1984）に基づき、区分 2B とした。

呼吸器感作性 : 分類できない

エタンジオール; エチレングリコール (107-21-1)	
呼吸器感作性	データ不足のため分類できない。

酢酸 (64-19-7)	
呼吸器感作性	酢酸による惹起に陽性反応を示した気管支喘息の患者や、アルコールまたは酢酸にばく露され I 型過敏性反応類似の反応を呈したヒトが報告されている（PATY (5th, 2001)）。またエタノールにアナフィラキシー反応と酢酸に即時型アレルギーを示したとの報告もある（HSDB (2005)）。しかし、以上の報告は極めて稀な症例であり、またその他にヒトに対しての報告や動物による試験報告などはなくデータ不足のため分類できない。なお、当該物質と喘息発作の関連性は否定できないため、取り扱いには十分な注意を要する。

クオタニウム-18 (61789-80-8)	
呼吸器感作性	データなし

流動パラフィン (8002-74-2)	
呼吸器感作性	データなし。

皮膚感作性 : 分類できない

エタンジオール; エチレングリコール (107-21-1)	
皮膚感作性	ヒトに対する報告が 2 件あり、本物質 5%又は 25%水溶液を 11 人に適用したところ、1 人（レンズの切断作業で 25%水溶液を扱い腕、胸、腹部に皮膚炎を発症した 31 歳女性、ニッケルアレルギーあり）に激しいアレルギー反応を示したが、他の 10 名にアレルギー反応はみられなかった（DFGOT vol. 4 (1992)）。また、本物質の 1%及び 5%水溶液を 10 人に適用したところ 1 人（4 ヶ月間光学レンズの洗浄作業で 25%水溶液を扱い、発疹がみられた 17 歳男性）にアレルギー反応はみられなかったが、本物質 3%を含むエタノール溶液に対して軽度の刺激、紅斑、腫れがみられた。他の 9 人についてはアルコールに対する軽度の刺激以外の反応はみられなかった（DFGOT vol. 4 (1992)）。なお、モルモットを用いたマキシマイゼーション試験において、感作性はみられなかったとの報告がある（SIDS (2009)）。動物試験では陰性の結果があるものの、ヒトの事例でアレルギー反応の事例があることから、分類できないとした。

酢酸 (64-19-7)	
皮膚感作性	データなし。

安全データシート

Modesta M2BLAST - Maintenance Spray

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

クオタニウム-18 (61789-80-8)	
皮膚感作性	CERI・NITE 有害性評価書 No.78(2005)のヒト疫学事例に、皮膚感作性が示されなかった報告が3例あり、モルモットを用いたマキシマイゼーション法に準拠した試験の結果の記述に「感作性は認められなかった」とあることから、区分外とした。
流動パラフィン (8002-74-2)	
皮膚感作性	データなし。
生殖細胞変異原性 : 分類できない	
エタングオール; エチレングリコール (107-21-1)	
生殖細胞変異原性	ガイダンスの改訂により「区分外」が選択できなくなったため、「分類できない」とした。すなわち、in vivo では、ラットの優性致死試験、マウスの小核試験及び染色体異常試験でいずれも陰性 (NITE 初期リスク評価書 (2007)、環境省リスク評価第3巻 (2004)、SIDS (2009)、ACGIH (7th, 2001)、ATSDR (2010)、CEPA (2000)) である。In vitro では、細菌の復帰突然変異試験、哺乳類培養細胞のマウスリンフォーマ試験、染色体異常試験、姉妹染色分体交換試験でいずれも陰性 (NITE 初期リスク評価書 (2007)、環境省リスク評価第3巻 (2004)、SIDS (2009)、ACGIH (7th, 2001)、ATSDR (2010)、CEPA (2000)) である。
酢酸 (64-19-7)	
生殖細胞変異原性	in vivo の試験結果がないので分類できないとした。in vitro 変異原性試験ではエームス試験および CHO 細胞を用いた染色体異常試験でいずれも陰性の結果 (PATY (5th, 2001)) が報告されている。
クオタニウム-18 (61789-80-8)	
生殖細胞変異原性	CERI・NITE 有害性評価書 No.78 (2005)、SIDS (1996)の記述から、経世代変異原性試験なし、生殖細胞/体細胞 in vivo 変異原性試験なし、生殖細胞/体細胞 in vivo 遺伝毒性試験なし、in vitro 変異原性試験で複数指標の (強) 陽性結果なし、であることから「分類できない」とした。
流動パラフィン (8002-74-2)	
生殖細胞変異原性	in vivo 試験のデータがなく分類できないとした。なお、Ames 試験 (in vitro 変異原性試験) で陰性の結果がある (農薬安全情報(1992))。
発がん性 : 分類できない	
エタングオール; エチレングリコール (107-21-1)	
発がん性	ACGHI で A4 (ACGIH (7th, 2001)) に分類されているため、「分類できない」とした。
NOAEL (慢性、経口、動物/オス、2年)	1500 mg/kg BW 動物 : マウス、動物の性別 : 雄、結果に関する注記 : その他 : 影響の種類 : 発がん性 (移行情報)
酢酸 (64-19-7)	
発がん性	酢酸・無水酢酸生産工場の大規模な疫学調査(PATY (5th, 2001))が実施され、労働者 1359 人のコホートで癌による死亡を評価の結果、前立腺がんでの増加 (6 例) を除き全ての癌による死亡が減少した。前立腺がんによる死亡の解釈は困難と結論されている(PATY (5th, 2001))が、いずれにしてもデータ不足のため分類できない。

安全データシート

Modesta M2BLAST - Maintenance Spray

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

クオタニウム-18 (61789-80-8)	
発がん性	データなし
流動パラフィン (8002-74-2)	
発がん性	ラットに2年間経口投与した試験で、腫瘍の発生率は対照群と比較して差は認められなかったとの報告があり、長期毒性試験における、実験動物に対するパラフィンは非発がん性であるとの記述がある (JECFA(1993))。またウサギ・マウスの2年間経皮試験では、発がん性は認められていない (EHC20(1982))との報告もある。しかし、経口投与による試験では動物1種のための試験データしかなく、区分外とするには疑義が残るため「分類できない」とした。

生殖毒性 : 分類できない

エタンジオール; エチレングリコール (107-21-1)	
生殖毒性	ラットを用いた経口経路 (混餌) での三世代生殖毒性試験においては生殖発生毒性に対する影響は認められなかったとの報告 (ATSDR (2010)、(NITE 初期リスク評価書 (2007)、環境省リスク評価第3巻 (2004)、CICAD 45 (2002))、マウスを用いた経口経路 (飲水) での連続交配試験では、母動物毒性はないが極めて高用量 (1,640 mg/kg bw/day) で、胎児への影響 (出生児体重の減少、同腹児数及び生存児数のわずかな減少、発生数は不明であるが顔貌異常と、頭蓋骨、胸骨分節、肋骨、椎骨で骨格変化) がみられたとの報告がある (ATSDR (2010)、CICAD 45 (2002))。ラットあるいはマウスを用いた経口経路 (強制) での催奇形性試験において、母動物毒性のみられない高用量 (1,000 mg/kg bw/day 以上) において児動物への影響 (胎児体重の減少、骨化遅延、骨格奇形) がみられている (ATSDR (2010)、NITE 初期リスク評価書 (2007)、環境省リスク評価第3巻 (2004)、CICAD 45 (2002))。以上のように、母動物毒性のみられない用量において主に骨格奇形を含む児動物への影響がみられたが極めて高用量であること、旧分類の根拠である作用機序がヒトに該当しないとの明確な証拠が得られなかったことから、分類できないとした。

酢酸 (64-19-7)	
生殖毒性	ラットを用い出産から18日齢までばく露した試験 (PATTY (5th, 2001)) およびマウスの器官形成期に経口投与した試験 (HSDB (2005)) 授乳影響あるいは仔の発生に対する悪影響の記載はない。しかし、交配前からのばく露による親動物の性機能および生殖能に及ぼす影響に関してはデータがないので分類できない。

クオタニウム-18 (61789-80-8)	
生殖毒性	CERI・NITE 有害性評価書 No.78 (2005)の記述から、ラットの生殖毒性試験、マウスの催奇形性試験において、親動物における一般毒性についての記述がない、または親動物での一般毒性が発現する用量で、親動物に妊娠率の低下、次世代に生存率の低下などがみられていることから、「区分2」とした。

流動パラフィン (8002-74-2)	
生殖毒性	データなし。

特定標的臓器毒性(単回ばく露) : 臓器の障害のおそれ (中枢神経系, 腎臓, 血液系)

安全データシート

Modesta M2BLAST - Maintenance Spray

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

エタンジオール; エチレングリコール (107-21-1)	
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	ヒトにおいては、経口摂取後の毒性影響は主として以下の3段階に分けられる。すなわち、第一段階 (摂取から 0.5-12 時間) : 中枢神経系への影響 (中毒、嗜眠、痙攣、昏睡) 及び代謝障害 (アシドーシス、高カリウム血症、低カルシウム血症)、第二段階 ((摂取から 12-24 時間) : 心臓及び肺への影響 (頻脈、高血圧、代償性過呼吸を伴う重度の代謝性アシドーシス、低酸素症鬱血性心不全、成人呼吸窮迫症候群)、第三段階 (摂取から 24-72 時間) : 腎毒性 (シュウ酸カルシウム沈着、血尿、急性尿細管壊死、腎不全) である (SIDS (2009)、CEPA (2000)、環境省リスク評価第3巻 (2004))。さらに、摂取から 6-14 日、あるいはそれ以降において見られる影響として第四段階を置き、中枢神経系影響に加え、神経学的影響(顔面神経麻痺、不明瞭な発語、運動能力の喪失、視力障害を含む)が観察され、脳神経の損傷を示唆するとの報告もある (NITE 初期リスク評価書 (2007)、ACGIH (7th, 2001)、DFGOT vol. 4 (1992))。なお、ヒトにおける経口摂取による致死量は、約 0.4-1.3 g/kg bw (CEPA (2000)) や 1.6 g/kg bw (SIDS (2009)、NITE 初期リスク評価書 (2007)、ACGIH (7th, 2001)) の報告がある。ヒトの吸入経路では、情報が少ないが、55 ppm のばく露で、1.5 分後から喉及び上気道の痛みがあり、79 ppm 以上では、激しい痛みとの報告がある (NITE 初期リスク評価書 (2007)、ACGIH (7th, 2001))。吸入経路では、ボランティアによる 55 ppm の吸入ばく露試験で吸入開始 1.5 分後から喉及び上気道の痛みがあり、79 ppm 以上では、痛みが非常に激しく 1 分以上耐えられなかった (NITE 初期リスク評価書 (2007)、ACGIH (7th, 2001))。ラット、マウスでは、投与量に相関した中枢神経抑制作用があり、多量の経口投与では、昏睡、麻痺、運動失調を示し死に至る。また、頻脈、頻呼吸、気管支肺炎、肺浮腫、うっ血性心不全、代謝性アシドーシス、腎臓障害を伴う多渴症、多尿症、尿中シュウ酸カルシウム結晶析出が報告されている。病理組織学的にはシュウ酸カルシウム結晶沈着による腎尿細管上皮の変性、間質性水腫、腎皮質の出血性壊死が認められている (NITE 初期リスク評価書 (2007)、SIDS (2009)、CEPA (2000)、ACGIH (7th, 2001))。なお、これらの影響はガイダンス値の区分の範囲では認められていない。以上より、区分 1 (中枢神経系、血液系、腎臓)、区分 3 (気道刺激性、麻酔作用) とした。
酢酸 (64-19-7)	
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	ヒトで氷酢酸または大量の酢酸を摂取後、播種性血管内凝固障害、重度の溶血、虚血性腎不全を起こした症例報告が複数あり (PATY (5th, 2001)、ACGIH (2004))、区分 1 (血液) とした。また、ヒトで吸入暴露による鼻、上気道、肺に対する刺激性の記載(PATY (5th, 2001))、「ヒトが蒸気を吸入すると気道腐食性、肺水腫が見られることがある」との記述 (ICSC(J) (1997))があり、実際に石油化学工場での事故によるばく露で気道閉塞と間質性肺炎を発症した報告 (ACGIH (2004)) があるので区分 1 (呼吸器系) とした。
クオタニウム-18 (61789-80-8)	
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	データ不足のため分類できない
流動パラフィン (8002-74-2)	
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	ワックスヒュームは眼・鼻・のどに軽度 (mild) の刺激性 (PATY5th(2001)) に基づき、区分 3 (気道刺激性) とした。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	: 分類できない

安全データシート

Modesta M2BLAST - Maintenance Spray

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

エタンジオール; エチレングリコール (107-21-1)	
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	ヒトでは、男性ボランティアに 69 mg/m ³ までの濃度を毎日 20-22 時間、1 ヶ月間吸入ばく露したが、全身影響はみられなかった (環境省リスク評価第 3 巻 (2004)、SIDS (2009)、ATSDR (2010))。また、カナダ及びフィンランドにおける職業ばく露による報告では、本物質ばく露により懸念された腎臓への影響はみられなかった (SIDS (2009))。この他、反復ばく露であることが明らかなヒトでの本物質への高濃度反復ばく露による知見はない。実験動物では、SIDS (2009) 及び ATSDR (2010) の記述より、腎臓が最も感受性の高い標的臓器であるとされており、SIDS (2009) で信頼性が最も高いと判断されたラットを用いた 16 週間、1 年間又は 2 年間混餌投与試験において、いずれも腎臓に毒性病変 (腎症、腎結石、尿結晶など) が雄に強く生じたが、その発現用量は区分 2 を遥かに超える用量 (腎毒性を指標とした LOAEL の最小値: 300 mg/kg/day (雄ラット 1 年間混餌投与試験)) であった (SIDS (2009))。一方、吸入経路では本物質の反復吸入ばく露試験自体は実施されていないが、SIDS (2009) による記述では、エチレングリコール類の毒性は SIDS がカテゴリー評価対象物質としたジエチレングリコール (DEG)、トリエチレングリコール (TEG)、PEG 200 のラット吸入ばく露における影響濃度が 1,000 mg/m ³ 超であることから、概して低いと考えられると推定されている。以上より、カテゴリー物質の知見も含めて、本物質は実験動物では経口、吸入のいずれの経路でも反復ばく露による毒性は低いと考えられるが、ヒトにおける高濃度反復ばく露による影響の有無に関して十分な知見がなく、データ不足のため分類できないとした。なお、旧分類では環境省リスク評価第 3 巻 (2004) にあるヒトでのばく露による症状を基に分類されたが、いずれの所見も被験者のごく一部にみられた所見で、本物質ばく露に関連した特異的な有害性を示す所見ではないと判断されたため、これらの知見は採用しなかった。
トリデセス-10 (69011-36-5)	
NOAEL (経口、ラット、90 日)	≥ 500 mg/kg BW 動物 : ラット、ガイドライン : OECD ガイドライン 408 (げっ歯類における反復投与 90 日間経口毒性)
ラウレス-10 (9002-92-0)	
LOAEL (経皮、ラット/ウサギ、90 日)	5000 mg/kg BW 動物 : ラット、ガイドライン : その他 :
酢酸 (64-19-7)	
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	ラットに 3% の被験物質を 6 ヶ月間胃内投与した試験で食道粘膜の慢性炎症がみられ (PATY (5th, 2001))、また、職業ばく露により、労働者が胸焼けや便秘などの消化器症状の訴え (PATY (5th, 2001))、また、女性労働者 117 人の横断研究においてばく露を受けた労働者が対照に比べ慢性咳嗽、胸部ひっ迫、鼻カタル、副鼻腔炎の有病率が有意に高かったとの報告 (ACGIH (2004)) もあるが、いずれもデータ不足で分類できない。
NOAEL (経口、ラット、90 日)	290 mg/kg BW 動物 : ラット、動物の性別 : オス
クオタニウム-18 (61789-80-8)	
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	データ不足のため分類できない
NOAEL (経口、ラット、90 日)	100 mg/kg BW 動物 : ラット、ガイドライン : OECD ガイドライン 407 (げっ歯類における反復投与 28 日間経口毒性)

安全データシート

Modesta M2BLAST - Maintenance Spray

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

流動パラフィン (8002-74-2)	
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	ラット 90 日間経口投与試験(0, 160, 1600 mg/kg/day) において、赤血球と血小板の減少、肝細胞の空包化、肉芽腫の発達、壊死、腸間膜リンパ節における肉芽腫の発現、細胞の過形成、頸部リンパ節における肉芽腫の発現、心臓僧坊帽弁の基部におけるリンパ球様細胞浸透の増加 (JECFA 1056(2003)) などの所見が用量依存的に見られたが、区分 2 のガイダンス値以下で試験が行われていないためデータ不足により分類できない。
誤えん有害性	: 分類できない
エタンジオール; エチレングリコール (107-21-1)	
誤えん有害性	データ不足のため分類できない。
動粘性率	14.505 mm ² /s
ラウレス-10 (9002-92-0)	
動粘性率	67.02 mm ² /s
酢酸 (64-19-7)	
誤えん有害性	データなし。
動粘性率	1.015 mm ² /s
クオタニウム-18 (61789-80-8)	
誤えん有害性	データなし
流動パラフィン (8002-74-2)	
誤えん有害性	データなし。

12. 環境影響情報

生態毒性

生態系 - 全般	: 水生生物に毒性、長期継続的影響によって水生生物に有害。
水生環境有害性 短期 (急性)	: 水生生物に毒性
水生環境有害性 長期 (慢性)	: 長期継続的影響によって水生生物に有害

エタンジオール; エチレングリコール (107-21-1)	
水生環境有害性 短期 (急性)	藻類 (Pseudokirchneriella subcapitata) 72 時間 ErC50 > 1000 mg/L、甲殻類 (オオミジンコ) 48 時間 EC50 > 1120 mg/L、魚類 (メダカ) 96 時間 LC50 > 100 mg/L (いずれも環境省生態影響試験, 2001、環境省リスク評価第 3 巻, 2004、NITE 初期リスク評価書, 2007) であることから、区分外とした。
水生環境有害性 長期 (慢性)	急速分解性であり (14 日後の BOD 分解度: 90% (既存点検, 1988)、甲殻類 (ニセネコゼミジンコ) の 7 日間 MATC=4.2 mg/L (環境省リスク評価第 3 巻, 2004)であることから、区分外とした。
LC50 - 魚 [1]	72860 mg/l 試験生物 (種) : Pimephales promelas
EC50 - 甲殻類 [1]	> 100 mg/l 試験生物 (種) : Daphnia magna
EC50 96h - 藻類 [1]	3536 mg/l 試験生物 (種) : その他: グレン藻

安全データシート

Modesta M2BLAST - Maintenance Spray

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

エタンジオール; エチレングリコール (107-21-1)	
EC50 96h - 藻類 [2]	6500 – 13000 mg/l 試験生物（種）：Pseudokirchneriella subcapitata（以前の 名前：Raphidocelis subcapitata、Selenastrum capricornutum）
NOEC (慢性)	≥ 1000 mg/l 試験生物（種）：Americamysis bahia（旧名：Mysidopsis bahia） 期間：「23 日」
NOEC 甲殻類 慢性	4.2 mg/l
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	-1.36
トリデセス-10 (69011-36-5)	
LC50 - 魚 [1]	12.76 mg/l 出典: EPISUITE v4.1
EC50 - 甲殻類 [1]	1.5 mg/l 試験生物（種）：オオミジンコ
EC50 72h - 藻類 [1]	3.4 mg/l 試験生物（種）：Desmodesmus subspicatus（旧名：Scenedesmus subspicatus）
ラウレス-10 (9002-92-0)	
LC50 - 魚 [1]	5.849 mg/l 試験生物（種）：Carassius auratus
EC50 72h - 藻類 [1]	2.05963 mg/l 試験生物（種）：Desmodesmus subspicatus（旧称： Scenedesmus subspicatus）
EC50 72h - 藻類 [2]	1.225 mg/l 試験生物（種）：Raphidocelis subcapitata（旧名： Pseudokirchneriella subcapitata、Selenastrum capricornutum）
酢酸 (64-19-7)	
水生環境有害性 短期（急性）	甲殻類（オオミジンコ）での 48 時間 EC50 = 65000µg/L（AQUIRE, 2010）で あることから、区分 3 とした。
水生環境有害性 長期（慢性）	急速分解性があり（BOD による分解度：74%（既存点検, 1993））、かつ生物 蓄積性が低いと推定される(log Kow=-0.17（PHYSPROP Database、2009）） ことから、区分外とした。
LC50 - 魚 [1]	> 1000 mg/l 試験生物（種）：Oncorhynchus mykiss（旧名：Salmo gairdneri）
LC50 - 魚 [2]	> 300.82 mg/l 試験生物（種）：Oncorhynchus mykiss（旧名：Salmo gairdneri）
EC50 - 甲殻類 [1]	> 1000 mg/l 試験生物（種）：Daphnia magna
EC50 - 甲殻類 [2]	> 300.82 mg/l 試験生物（種）：Daphnia magna
EC50 72h - 藻類 [1]	> 1000 mg/l 試験生物（種）：スケルトネマコスタタム
EC50 72h - 藻類 [2]	> 300.82 mg/l 試験生物（種）：スケルトネマコスタタム
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	-0.17 出典：HSDB, ChemIDplus
クオタニウム-18 (61789-80-8)	
水生環境有害性 短期（急性）	甲殻類（オオミジンコ）の 48 時間 LC50=0.16mg/L（CERI・NITE 有害性評価書 （暫定版）、2006）から、区分 1 とした。
水生環境有害性 長期（慢性）	急性毒性が区分 1、生物蓄積性が低いものの（BCF=13（CERI・NITE 有害性評 価書（暫定版）、2006））、急速分解性がない（BOD による分解度：0%（既 存化学物質安全性点検データ））ことから、区分 1 とした。

安全データシート

Modesta M2BLAST - Maintenance Spray

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

クオタニウム-18 (61789-80-8)	
LC50 - 魚 [1]	1.48 mg/l 出典: 欧州化学物質情報システム
EC50 - 甲殻類 [1]	3.1 mg/l 試験生物 (種) : Daphnia magna
EC50 96h - 藻類 [1]	0.1 mg/l 出典: 欧州化学物質情報システム
NOEC (慢性)	0.38 mg/l 試験生物 (種) : Daphnia magna 期間: 「21 日」
流動パラフィン (8002-74-2)	
水生環境有害性 短期 (急性)	データ不足のため分類できない。
水生環境有害性 長期 (慢性)	データがなく分類できない。

残留性・分解性

Modesta M2BLAST - Maintenance Spray	
残留性・分解性	急速分解性でない
エタングリコール; エチレングリコール (107-21-1)	
残留性・分解性	急速分解性
トリデセス-10 (69011-36-5)	
残留性・分解性	急速分解性でない
ラウレス-10 (9002-92-0)	
残留性・分解性	急速分解性でない
酢酸 (64-19-7)	
残留性・分解性	急速分解性
クオタニウム-18 (61789-80-8)	
残留性・分解性	急速分解性でない
流動パラフィン (8002-74-2)	
残留性・分解性	急速分解性でない

生体蓄積性

Modesta M2BLAST - Maintenance Spray	
生体蓄積性	データなし
エタングリコール; エチレングリコール (107-21-1)	
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	-1.36
酢酸 (64-19-7)	
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	-0.17 出典: HSDB, ChemIDplus

土壌中の移動性

Modesta M2BLAST - Maintenance Spray	
土壌中の移動性	データなし

安全データシート

Modesta M2BLAST - Maintenance Spray

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

エタンジオール; エチレングリコール (107-21-1)	
土壤中の移動性	0.2 出典 : HSDB
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	-1.36
トリデセス-10 (69011-36-5)	
土壤中の移動性	111.3 出典: EPISUITE v4.1
酢酸 (64-19-7)	
土壤中の移動性	1.153 出典 : ECHA
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	-0.17 出典 : HSDB, ChemIDplus
クオタニウム-18 (61789-80-8)	
土壤中の移動性	57960000 出典: EPISUITE

オゾン層への有害性

オゾン層への有害性 : 分類できない

13. 廃棄上の注意

推奨製品/梱包処分	: 管轄当局の規制に準拠して廃棄する。
廃棄方法	: 許可を得た収集業者の分別回収に準拠して内容物／容器を廃棄する。
地域の廃棄規則	: 管轄当局の規制に準拠して廃棄する。
推奨下水処理	: 管轄当局の規制に準拠して廃棄する。
追加情報	: 引火性蒸気が容器内に蓄積することがある。 空の容器を再利用しない。

14. 輸送上の注意

UN RTDG に準ずる

国際規制

国連勧告(UN RTDG)

国連番号(UN RTDG)	: 非該当
正式品名 (UN RTDG)	: 非該当
容器等級(UN RTDG)	: 非該当
輸送危険物分類 (UN RTDG)	: 非該当

MARPOL 73/78 附属書 II 及び IBC コードによるばら積み輸送される液体物質

非該当

国内規制

その他の情報 : 補足情報なし

安全データシート

Modesta M2BLAST - Maintenance Spray

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

15. 適用法令

国内法令

化審法	：優先評価化学物質（法第2条第5項）
労働安全衛生法	：名称等を表示すべき危険物及び有害物（法第57条第1項、施行令第18条第1号～第2号別表第9） 危険物・引火性の物（施行令別表第1第4号） 名称等を通知すべき危険物及び有害物（法第57条の2第1項、施行令第18条の2第1号～第2号別表第9） 酢酸（政令番号：176）（5%未満） エチレングリコール（政令番号：75）（5%未満） 固形パラフィン（政令番号：170）（5%未満） 【改正後 令和7年4月1日以降】 名称等を通知すべき危険物及び有害物（法第57条の2第1項、施行令第18条の2第1号、第3号別表第9） 腐食性液体（労働安全衛生規則第326条）
消防法	：指定可燃物、可燃性固体類（法第9条の4、危険物令第1条の12・別表第4）
大気汚染防止法	：揮発性有機化合物（法第2条第4項）（環境省から都道府県への通達）
海洋汚染防止法	：有害でない物質（施行令別表第1の2） 有害液体物質（X類物質）（施行令別表第1） 有害液体物質（Y類物質）（施行令別表第1） 有害液体物質（Z類物質）（施行令別表第1） 有害液体物質（Y類同等の物質）（環境省告示第148号第2号） 有害液体物質（Z類同等の物質）（環境省告示第148号第3号）
外国為替及び外国貿易法	：輸入貿易管理令第4条第1項第2号輸入承認品目「2の2号承認」 輸出貿易管理令別表第1の16の項 輸出貿易管理令別表第2（輸出の承認）
特定有害廃棄物輸出入規制法（バーゼル法）	：特定有害廃棄物（法第2条第1項第1号イ、平成30年6月18日省令第12号）
化学物質排出把握管理促進法（PRTR法）	：第1種指定化学物質（法第2条第2項、施行令第1条別表第1） ポリ（オキシエチレン）＝アルキルエーテル（アルキル基の炭素数が12から15までのもの及びその混合物に限る。）（管理番号：407）（1.3%） ビス（アルキル）（ジメチル）アンモニウムの塩（アルキル基の構造が直鎖であり、かつ、当該アルキル基の炭素数が12、14、16、18又は20のもの及びその混合物に限る。）（管理番号：700）（0.6%）
労働基準法	：がん原性化学物質（法第75条第2項、施行規則第35条別表第1の2第7号）
農薬取締法	：特定農薬（法第3条第1項、平成15年3月4日告示第1号）

16. その他の情報

免責条項 当該シートに記載されている情報は信頼できる情報をもとにしているが、情報の正確性について明示・暗示を問わずいかなる保証をするものではない。製品の取扱い、使用、保管または廃棄条件は当社の管理外であり、我々の認知するところではないことがある。製品の取扱い、使用、保管または廃棄によって生じる損失、損害または費用に対する責任は、直接・間接を問わず一切負わない。当該シートは本製品にのみ使用するべきである。本製品がその他の製品の成分として使用される場合は、当該シートに記載されている情報が適用されないことがある。